

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

瑞浪市地域公共交通会議

平成19年1月24日設置

フィーダー系統 平成28年6月27日 確保維持計画策定

1. 地域公共交通会議が目指す地域公共交通の姿

2

■ 瑞浪市内の公共交通

J R 鉄道	市内に2駅（瑞浪駅、釜戸駅）
東鉄バス	東濃鉄道株式会社運行。明知線、瑞浪＝駄知＝多治見線の2路線。地域間幹線系統。
コミュニティバス	市運行。9路線。
デマンド交通	市運行。3ルート（日吉＝明世ルート、大湫＝日吉東部ルート、釜戸ルート）
タクシー	4事業者（平和タクシー、東鉄タクシー、小林タクシー、SKUタクシー）

■ 「瑞浪市地域公共交通総合連携計画」（平成26年度～平成35年度、平成30年度改訂）

- ・ 基本方針1 公共交通機関の機能分担と連携強化によるネットワークの再構築を目指す
- ・ 基本方針2 協働による持続可能な仕組みづくりの確立を目指す
- ・ 基本方針3 瑞浪市コミュニティバスとスクールバスとの一体的な運用を目指す

■ 平成27年度策定「瑞浪市生活交通ネットワーク計画」

- ・ （1）交通不便地域の解消
- ・ （2）公共交通ネットワークの構築
- ・ （3）サービス水準の維持、向上

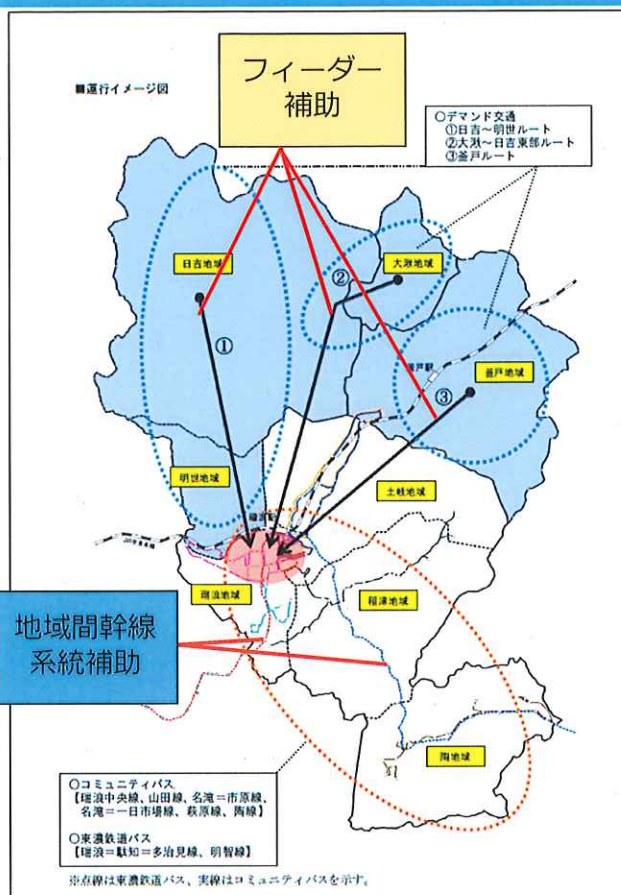
■北部地域と中心部・南部地域に切り分けて公共交通体系を構築。

(1) 北部地域

- ・平成28年10月から日吉・大湫地域においてコミュニティバスの一部の運行便を廃止し、**デマンド交通を導入**。
- ・まちづくり推進協議会が運行するデマンド交通（コミバス大湫）は廃止。
- ・平成29年10月から釜戸地域においてコミュニティバスの一部の運行便を廃止し、**デマンド交通を導入**（平成29年4月から平成29年9月まで実証運行）。
- ・通学対応については、平成30年度まではコミュニティバスにより対応。平成31年度以降は、統合後の瑞浪北中学校はスクールバス、小学校はコミュニティバスまたはスクールバスとする。

(2) 中心部・南部地域

- ・**東濃鉄道バスとコミュニティバス**の運行。
- ・平成28年度の瑞浪南中学校への統合後は、中学校はスクールバスを運行。



2.計画の達成状況の評価に関する事項

<瑞浪市地域公共交通総合連携計画（第6次瑞浪市総合計画）>

・**コミュニティバス年間利用者数** 平成35年度まで100,000人維持

(平成24年度現状値：104,148人)

・**市民アンケートにおける満足度評価**

「瑞浪市は、利用しやすい公共交通が整っているまちだと思いますか」

目標値 平成30年度：44.1% 平成35年度：47.1%

(平成25年度現状値：41.1%)

<瑞浪市地域内フィーダー系統確保維持計画>

ルート	目標値
日吉＝明世ルート	1日4便、16人
大湫＝日吉東部ルート	1日2便、8人
釜戸ルート	1日2便、8人
合計	1日8便、32人

(平成28年10月～平成29年9月)

※日吉＝明世ルート、大湫＝日吉東部ルートは平成28年10月から導入。

釜戸ルートは、平成29年4月から9月まで実証運行。平成29年10月から本格運行を開始。

1. 時刻表作成・配布（実施主体：瑞浪市）

- ・時刻表を全戸配布（冊数：12,500部）。
- ・平成28年9月15日号
（日吉＝明世ルート、大湫＝日吉東部ルート導入）
- ・平成29年3月15日号（釜戸ルート導入）。



2. デマンド交通愛称募集（実施主体：瑞浪市）

- ・デマンド交通を親しみをもって利用していただくために愛称の募集を実施。
- ・選考の結果、「いこCar（いこかあ〜）」という愛称に決定し、車両に表示。

3. 制度説明会の開催（実施主体：瑞浪市）

- ・平成28年度：自治会（約40回）その他長寿会など。制度導入に伴う説明、調整。
- ・平成29年度：区長会（3回）長寿会（3回）。制度周知。

4. 自治会要望の集約、利用者アンケートの実施（実施主体：瑞浪市）

- ・自治会要望について各区単位で要望の集約。
- ・コミュニティバス、デマンド交通ともに利用者アンケートを実施。
- ・対応可能な要望については、次年度の運行内容の改正案に反映。

5. 運転免許証自主返納支援制度の準備（実施主体：瑞浪市）

- ・コミュニティバス、デマンド交通、東鉄バス、タクシーの利用券の支給を行うため、関係機関と調整。

6. デマンド交通の観光利用の準備（実施主体：瑞浪市）

- ・観光利用に向けたミーティングポイント新設の検討。



4.具体的取組みに対する評価

- 平成29年度第2回瑞浪市地域公共交通会議：平成30年1月12日（金）10時から於：瑞浪市役所2階大会議室）にて自己評価を実施。初の事業評価。

・コミュニティバス

目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度
100,000人	96,781人	91,723人	84,416人

- ・市民満足度「瑞浪市は、利用しやすい公共交通が整っているまちだと思いますか」
26年度：34.1%、27年度：32.1%、28年度：36.3%

・デマンド交通

ルート	目標値	実績値
日吉＝明世ルート	1日4便、16人	1日1.96便、2.85人
大湫＝日吉東部ルート	1日2便、8人	1日1.60便、2.54人
釜戸ルート	1日2便、8人	1日1.10便、1.54人
合計	1日8便、32人	1日4.66便、6.93人

<考察>

- 「瑞浪市生活交通ネットワーク計画」に基づき、市北部におけるデマンド交通の導入は実施したものの、引き続き、制度の周知を行い、利用者の増加を図るべき。
- コミュニティバスの利用人数は減少傾向。デマンド交通の導入による廃止便もあるため、目標の見直しも必要。
- 地域間幹線系統である東濃鉄道バス（瑞浪＝駄知＝多治見線）は岐阜県公共交通会議において協議対象となっており、系統維持の取組が必要。
- 公共交通施策について、より多くの市民に知ってもらう取組が必要。

課題	対応方針
①目標値に関する課題 ●瑞浪市地域内フィーダー系統確保維持計画に定めた目標と実績の差が大きい。	●主な理由として、導入1年目であり、 利用人数の想定が困難 であった。今後の実績も踏まえて、 適正な目標値を検討 する。
②新規利用者に関する課題 ●稼働率が頭打ちで推移している状況であり、固定客の利用に留まっている状況が考えられる。どのように新規利用者を掘り起こすかが課題である。	●引き続き、広報を通してデマンド交通の制度周知を行うとともに、区長会等で 制度説明会を実施 することによって、制度を知ってもらう機会を増やす。 運転免許証自主返納支援制度 を通して、自家用車から公共交通機関への利用の転換を促進する。 デマンド交通の観光利用 を通じて観光客の利用促進を促す。
③要望の把握に関する課題 ●地域のニーズに的確に応え、利用しやすい公共交通を提供する必要がある。	●引き続き、自治会を通じた 地区要望 の集約と 利用者アンケート を通して、要望の整理を行うとともに、対応可能なものは順次対応していく。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

瑞浪市地域公共交通会議

平成19年1月24日設置

フィーダー系統 平成28年6月27日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
平成28年10月からの運 行のため前回の事業評価実 績なし		

2.アピールポイント

■ デマンド交通愛称募集

- 市民の生活の足としてより身近に感じ、親しみをもって利用していただくことで、利用促進につながるよう愛称募集を実施。選考の結果「いこCar（いこか〜）」に決定した。市報に掲載するとともに、車両貼付用マグネットに愛称入りのマグネットを新調。愛称募集を行ったことにより、デマンド交通の制度の周知にもつながった。

■ デマンド交通導入によるネットワークの充実

- 市北部の公共交通においては、朝・夕のコミュニティバスと昼間のデマンド交通の役割分担により**ネットワークが充実**。



■ フリー乗降区間の設置

- デマンド交通の利便性を高めるため、ルートの沿線であればどこであっても乗降できる**フリー乗降区間**を設けた。

■ 要望への対応

- 要望があった箇所については、**ミーティングポイント**を設定するなど、要望に対応した。

■ 制度説明会の実施

- デマンド交通導入にあたり、地域の意見をうかがうため、**自治会単位できめ細かに制度の説明**を行った。

■ 運転免許証自主返納支援制度の開始

- 自家用車から公共交通機関への利用の転換**を促進し、**高齢運転者による交通事故の減少**を図るため、平成30年1月から65歳以上の瑞浪市民で有効な運転免許証の「免許取消しの申請」を行い自主返納した方に公共交通利用券5,000円相当を交付。

■ デマンド交通の観光利用の開始

- 観光客からの問合せの多い観光スポットに限定し、**デマンド交通の観光利用を開始**。